

第2章 IPM 2010 における日本パビリオンの運営

1. 事業全体の流れ

2009年	8月10日	出展者募集開始
	9月16日	応募を終了、選考開始
	10月16日	出展者決定、通知
	11月04日	14:00より近鉄エクスプレス大手町本社・特別会議室にて 出展者セミナー（説明会）を開催
	12月12日	植木及び一部鉢物海上輸送：大井港出航
2010年	1月06日	植木及び一部鉢物 ロッテルダム港到着
	1月22日	切り花、鉢物 航空輸送：成田空港出発⇒フランクフルト空港
	1月24日	植木及び一部鉢物 会場搬入、パビリオン装飾
	1月25日	切り花、鉢物会場搬入、パビリオン装飾
	1月26日	IPM Essen 第1日目
	1月27日	IPM Essen 第2日目
	1月28日	IPM Essen 第3日目
	1月29日	IPM Essen 第4日目 搬出・撤去

2. 運営内容の詳細

(1) 出展者募集

■募集案内の作成

農林水産物等海外販路創出・拡大委託事業及び本展示会の基本コンセプト、目指すべきゴール、出展者の特典、負担等を分かりやすく募集案内（参考資料1）として文章化。

■Webによる募集

近鉄エクスプレス販売の出展者募集専用ホームページ（参考資料2）にて、案内書と募集要項を開示。「出展申込書」はワードとPDF形式の2種類を用意し、ダウンロードが可能な作りとした。

■「出展申込書」の受付

ファックスまたは郵送により、プロジェクト事務局にて受付を開始した。各候補者の詳細情報を把握するため「出展申込書」に企業・団体や商品に関する情報や目的、意欲について詳しく回答をしてもらった。順次、データベース化していった。

■出展や海外への販売に対する意識等の確認

「出展申込書」に基づき簡単なヒアリングを実施、採点を行った。展示・商談会テーマとの整合性や、商材の重複などを確認したうえで出展希望者を精査。同時に現地有識者の

意見や輸入規制情報をもとに個々の商材について吟味し、出展者案を作成した。

■出展者の決定

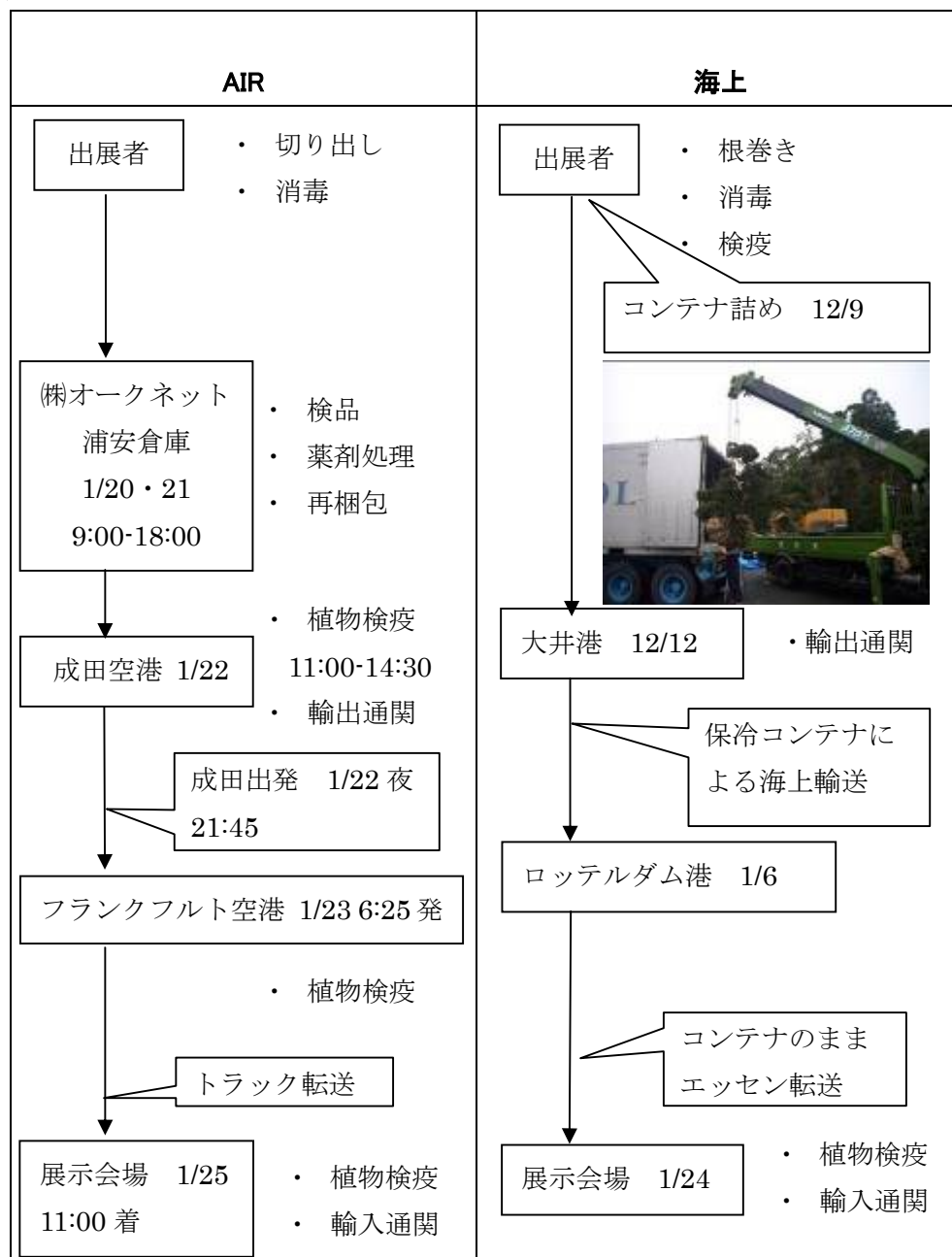
上記出展者案について農林水産省に協議した上でこれを決定した。

(2) 出展者セミナーの開催、出展者マニュアルについても参照。

(3) 出展品について

出展者 (生産者)	Figure	Common Names	
		Japanese	English
アグリ マツモト有限会社	Cut Flower	サンダーソニア切花	Sandersonia aurantiaca
有限会社あかざ	Bonsai	シンパク	Chinese Juniper
有限会社いとう商事	Bonsai	五葉松	Japanese white pine
有限会社いとう商事	Garden tree	キョウボク	Japanese yew
有限会社いとう商事	Garden tree	キンズング	box leaved holly, Japanese holly
有限会社いとう商事	Garden tree	イヌマキ	buddhist pine
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	カーネーション	carnation
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	コスモス	cosmea
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	マーガレット	Marguerite
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	デンファレ(アルテミス)	den phal/cooktown orchid
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	スカビオサ	scabious
長崎県農林部農産園芸課	Cut Flower	アスチルベ	astilbe
長崎県農林部農産園芸課	live plants	スパソグロッチス 洋ラン	Spathoglottis
八江農芸株式会社	Cut Flower	ユートマ(トルコギキョウ)	Eustoma
株式会社 向山蘭園	live plants	シンビジウム	Cymbidium
株式会社 向山蘭園	live plants	ミルトニア	Miltonia
株式会社 向山蘭園	live plants	オドントグロッサム	Odontoglossum
株式会社 向山蘭園	live plants	ファレノプシス	Phalaenopsis
Feel at	live plants	シンビジウム	Cymbidium
豊明花き株式会社	live plants	ファレノプシス	Phalaenopsis
豊明花き株式会社	live plants	デンドロビウム	Dendrobium
豊明花き株式会社	live plants	デンマークカクタス	Denmark cactus
豊明花き株式会社	live plants	ヘデラ ‘白雪姫’	Hedera
豊明花き株式会社	live plants	エピデンドラム	Epidendrum
豊明花き株式会社	live plants	ワイヤープランツ	wire plant
CHIBA フラワーボックス	Cut Flower	カーネーション	Carnation
CHIBA フラワーボックス	live plants	アマリリス	Hippeastrum
花き輸出振興協議会	Loppings(切り枝)	コデマリ	reeves spirea
花き輸出振興協議会	Loppings(切り枝)	啓翁桜	Prunus
花き輸出振興協議会	Cut Flower	スイートピー	sweet pea
花き輸出振興協議会	Cut Flower	デルフィニウム	delphinium
花き輸出振興協議会	Cut Flower	オキシペタラム	Oxypetalam caeruleum
花き輸出振興協議会	Cut Flower	グロリオサ	gloriosa
花き輸出振興協議会	Cut Flower	シンビジウム	Cymbidium
花き輸出振興協議会	Cut Flower	スカビオサ	scabious
花き輸出振興協議会	Cut Flower	スプレーストック	Common Stock
花き輸出振興協議会	Cut Flower	トルコギキョウ	Eustoma
有山緑化繁殖株式会社	live plants	タマリユウ	
有山緑化繁殖株式会社	live plants	フイリヤブラン	Variegated lilyturf.

(3) 出展品の物流



- 切花、鉢物はオークネット浦安倉庫にて集荷後、成田からフランクフルトまで直行便利用
- コールドチェーンの確保（浦安倉庫、成田、フランクフルト、会場までの動線を確認。）
- 輸出規制のクリア（事前に全品種の輸入規制を確認。一部、栽培地検査が間に合わないものがあり、切花として出荷。他法令該当種あり。）
- 開花ステージの調整のため、各生産者からの出荷はギリギリまで遅らせた。

- 圃場にて輸出検疫・コンテナ詰め後、大井港からロッテルダムまで海上輸送、その後エッセン会場までコンテナ転送。
- コールドチェーンの確保（リーファーコンテナを使用。）
- 輸入規制のクリア（事前検疫を済ませた圃場にて育成された植木から出展物を選定。）

◆梱包の留意点

IPM Essen 2010 に出展する花材につき、日本から展示会場までその品質を劣化させることなく輸送するため、各出展者には下記の点を留意の上、以下の要領で梱包を行ってもらった。

- 展示会に出展する花材は、出荷前に必ず消毒をする。

(輸出の際、検疫時に病害虫が発見された場合は、輸出ができなくなってしまうため。)

- 輸送所要時間が通常の国内での取引の場合と比較して長くなるので、花材の品質保持のため、必要な薬剤処置をする (エコゼリー使用)。
- 水等は使用しないため、切花は可能な限り到着後速やかに切戻しと水揚げを行う。
- 通気性をよくするため、各ダンボール箱に通風穴を開ける (箱の強度維持に注意)。
- 梱包に際しては、全ての花材をダンボール箱に梱包する。また、ダンボール箱については輸出用のダブル・カートンなど、航空機による輸出に耐える十分な強度を持った箱を使用する。(木材は一切使用しないようにする。)



- 輸送する花材の性質・性状、所要時間、輸送条件 (振動、衝撃、温度) 等を考慮し、花材の品質を劣化させることなく展示会場に届けるための梱包をする。
- 輸送に使用する輸送機具は、トラック、フォークリフト、航空機、空港内で使用する航空機用パレットの荷役・移動機器などである。よって貨物の輸送中、荷役中、航空機の離着陸時等に、若干の振動と衝撃があるので、しっかりと固定するようにする。



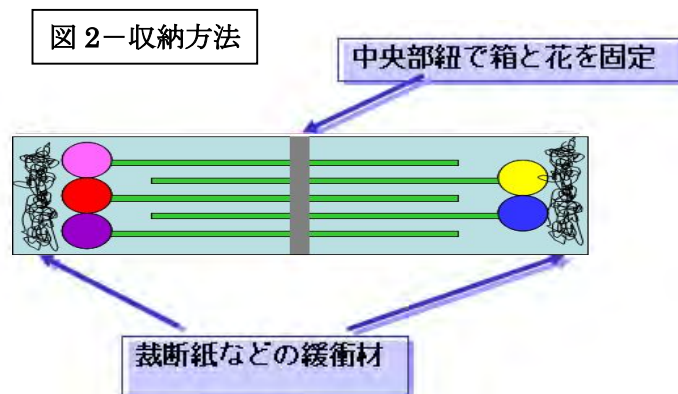
【梱包手順】

- ①花材は品種ごとに束ねる。
- ②花材によっては各花束を新聞紙で包むなど、結露防止処置を行う。(図1)
- ③花束は頭を互い違いに収納していく(収納効率を高め花キズを防ぐため)。(図2)
- ④花束の茎はエコゼリーに浸し、外れないようにビニールテープなどで固定する。
- ⑤箱の両端には必要に応じてシュレッターを通した裁断紙のような緩衝材を入れる。(図2)
- ⑥花材収納後、ダンボール箱の蓋はガムテープでしっかりと閉じる。

図1—新聞紙による結露対策



図2—収納方法



【Keep Cold +5℃】の温度表示シール

温度表示シール：切花の場合は5℃で設定する



展示会判別用シール

オークネット倉庫、税関、検疫所、EU側が判別するために必要なもの



Hall 2.0, Stand 108
C/NO.

(4) 日本パビリオンの設営

パビリオンのデザインは、海外での花き展示に豊富な経験を持つメンバーにより設計、施工を行った。

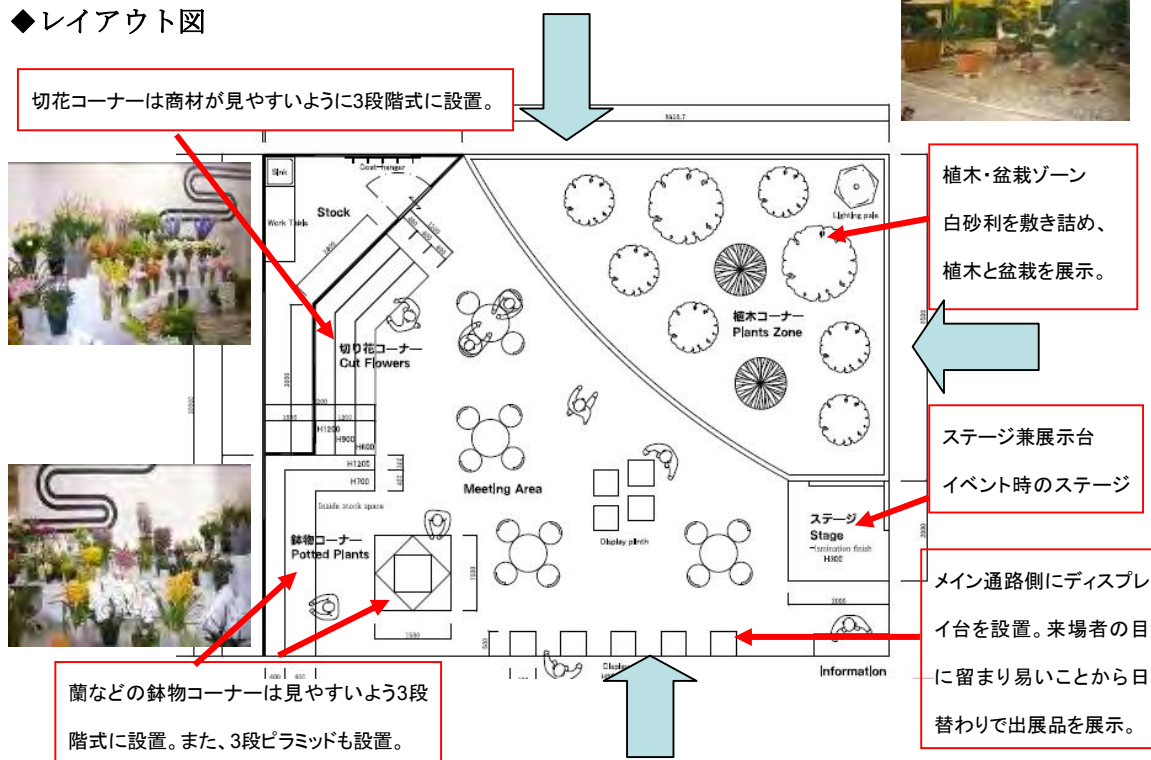
- 基本レイアウトは「ノンパーティション」ブースとし、零細生産者も1アイテムから出展できる設計とした。
- 浮遊来場者のストップ・アンド・ゴー（見物の立寄りだけ）を減らし、「真」の潜在顧客との対応に十分な時間を使えるようにした。
- 海外における花き見本市であることを意識し、商材カテゴリによるゾーン分けをするなど外国人にとってわかりやすいパビリオン構造とした。
- サイズは、10m × 12.5m の 125 m²。隣ブースとの通路をなくし、少しでも広く場所を取れるよう設定した。

◆日本パビリオンのコンセプト

「ウォークスルー型」の「ノンパーティションブース」は、

- ①真に取引を希望する顧客を内部に誘導し、商談に専念できる空間を演出する。
- ②真に輸出可能性のあるアイテムを生産する零細生産者の商品可能性のアイテム出展率を高める。
- ③日本パビリオンとしての一体感の創造。
などの相乗的な効果がある。

◆レイアウト図



植木・盆栽ゾーン



鉢物ゾーン



切り花ゾーン



※切り花は会期 2 日目夜に切り戻しと保鮮剤の入れ替えを行った

◆施工

ドイツにおける展示・商談会の通例として施工に十分な期間が与えられ、日本パビリオンの施工も非常にスムーズかつ計画的に進行させることができた。



「装飾の半分は出展物自身」のコンセプトから、施工はシンプルに。



カラーは白を基調に、モダンな和風イメージを出したデザインとした。

◆植木の搬入

着荷の状態は良好で、センチュウも発見されず無事検疫も合格。植木の配置は広い場所を必要とし、移動も困難なため、作業のしやすさを考慮して切り花・鉢物搬入に先行して行った。また、今回テスト輸送として一部の鉢物を混載したが、低温に弱いエリアアポロイデスを除き着荷は良好であった。



◆切花、鉢物、枝物出展物の搬入

雪による悪天候の為会場到着が 3 時間遅れたが、搬入作業に影響は出なかった。着荷の状態は、一部のデリケートな切花に萎れが見られたが、物理的なダメージはなく、相対的に良好であった。この時点で、圃場採花から 5～6 日が経過。切戻し処理を行い、保鮮剤入りのバケツで水あげをした。着荷状態がよく、会場内が低温であり、問題が見られなかったため、会場内で保管することとした。



(5) 通訳の配置

商談及びイベント用の通訳として、ドイツ在住の日本人及び現地人（日本語・英語・ドイツ語可能）を 4 名配置。商談やイベント以外の時間は、来場者に積極的に声がけを行い、集客のサポートを行った。

